
道化師とハナ

藍音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

道化師とハナ

【Nコード】

N0153Z

【作者名】

藍音

【あらすじ】

誰からもなにも許されなかった少年レオ。

少年は柵越しにある少女と出会い、少年の世界が変わる。

prologue

貴方は何を許されていますか ？

きつと泣くこと、笑うこと、怒ること…許されているでしょう。

泣いて、笑って、怒ることができる。

そんなことができる貴方が羨ましいです。

それ以前に生きること許されているのではないでしょう。

しょうがなく生かしているのではなく。

…何かを許されることは自分を認めてもらえたということ。

それがどんなに幸せか、どんなに…どんなに…。

それすらもわからないで生きている、

当たり前と言える貴方が羨ましい。

なぜなら、俺は…

。

友達役

ここはあるサーカスのテント。その中には片手に鞭を持った人間と傷ついた動物

そして、傷ついた人間がいる。

その人間の中でたった2人だけが牢に入れられている。

正確には1人と死体だ。そこにいる少年はただ無心に空見上げている。

少年の名前はレオ。誰がつけたのではなく、彼がそう名のつたのだ。

「お前なんでまだ生きてんだよ？」

ある男がレオに向かってそう聞くと、少し悲しそうな顔をしてレオは答えた。

「わかんないよ…でもまだ生きたいんだ、生きなきゃいけない気がするんだ。」

「そーかよっ！」

その時、きれいなドレスを着た少女がまっすぐレオの牢に向かって歩いてきた。

少女は何を見ても無表情でいる。

「こ、これはライラ様！！いったい何用得…？」

男は恐縮して頭を下げながら少女に言う。

ライラとはある貴族の一人娘で笑わないという事でかなり有名らしい。

「その子…こちらで雇わせてくれないかしら？」

そう言つてライラはレオを指差した。

「で、ですがそれは…」

「午後だけでいいわ。金はもちろん払うし、駄目かしら？」

「……わかりました。」

それから、牢の鍵がとかれ、牢の外に出る。

「ありがとう」

小さい声でレオはそう言った。

馬車の中

「あの、何で出してくれたんですか…？」

戸惑いながらもレオはライラに訪ねた。ライラは少しじつとレオを見ると口を開いた。

「そうね。貴方を出した理由は特にないわ。

…私、もうすぐ死ぬかもしれないのよ…で、お父様が友達や役に誰か選べと言われたの。

だから貴方は何もせず、ただ生きてそこにいてだけでいいわ。」
少女はそう言っただけのため息をこぼした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0153z/>

道化師とハナ

2011年12月1日23時32分発行